

あしぎん香港レポート

2017年12月号

- 【調査レポート】中国自動車市場・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 【トピックス】中国共産党大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 【アセアンレポート】タイへの法人の進出形態・・・・・・・・・・4
- 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 【香港コラム】茶餐廳・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

足利銀行香港駐在員事務所
SUITE 1601, 16/F, TOWER2, THE GATEWAY,
HARBOUR CITY, TSIM SHA TSUI, KOWLOON,
HONG KONG
TEL:+852-2251-9475
FAX:+852-2251-9476

本レポートの内容につきましては、弊行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談下さいませようお願い致します。



足利銀行



めぶきフィナンシャルグループ

【調査レポート】

—中国自動車市場—

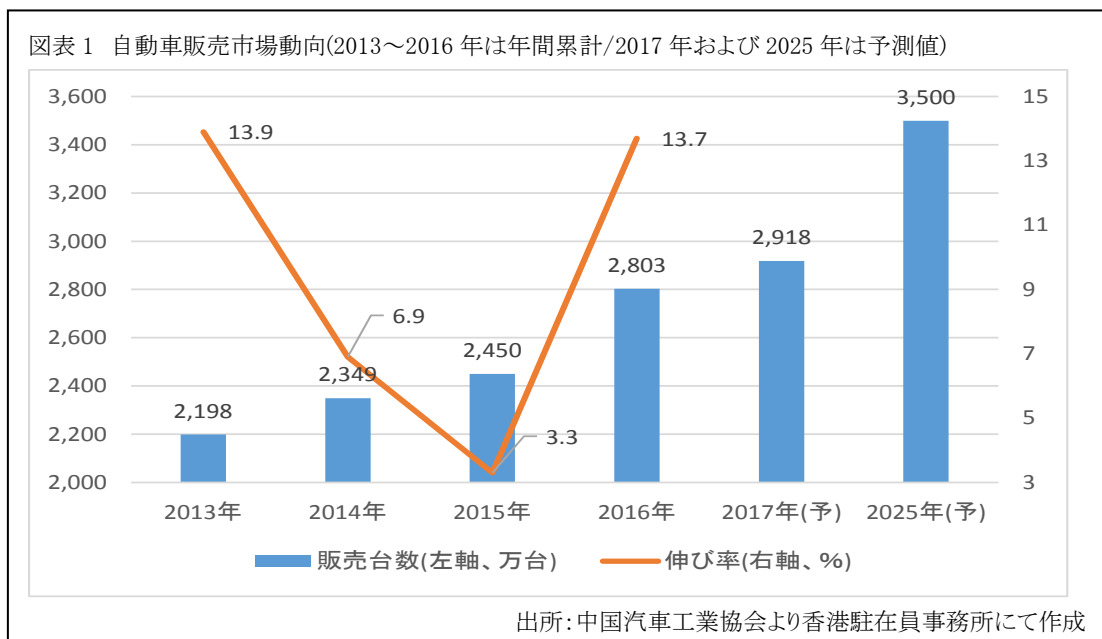
1. はじめに

中国自動車市場は、2016年の新車販売台数が2,800万台を超え、全世界の販売台数の約3割を占める世界一の自動車市場です。日本市場は、年間500万台前後で推移していることから、規模の大きさには目を見張るものがあります。また、今後も世界最大の人口や所得水準の向上、インフラ整備等により、益々の成長が見込める市場であると期待されていることから、世界の自動車メーカー各社は、引き続き、中国自動車市場に注力していくことを掲げています。

それでは、このように今後も成長が見込める中国自動車市場において、日系自動車メーカーはどのような状況にあるのか。本稿では、中国自動車市場の概要と共に、日系自動車メーカーの動向をレポートします。

2. 中国自動車市場の概要

まずは、中国自動車市場について、ここ数年の販売台数や伸び率の推移を通じ、市場の概要



を確認していきます。(図表1)

伸び率の増減はありますが、一貫してプラス成長となっています。2017年も10月までの累計で、昨年同期比プラス成長となっていることから、2017年の通年では、過去最高を記録した2016年を上回ることが、確実視されています。また、中国政府は2025年に年間3,500万台まで販売台数を伸ばす計画を打ち出しており、今後も安定的に成長していくものと思われます。

3. 日系自動車メーカーの販売動向

拡大する中国自動車市場を、日系自動車メーカーは捉えられているのか。中国自動車市場における、メーカー別の販売動向より確認していきます。(図表 2)

図表 2 メーカー別販売台数(2017年 1～10月)

順位	メーカー		販売台数 (万台)	伸び率 (%、前年同期比)
1位	フォルクスワーゲン	ドイツ	330	4.3
2位	ゼネラル・モーターズ	米国	313	2.2
3位	日産	日本	117	10.8
4位	ホンダ	日本	115	17.3
5位	トヨタ	日本	107	8.5
全体			2,292	4.4

出所: 中国汽車工業協会より香港駐在員事務所にて作成

日系大手 3 社は、市場の伸びを上回る勢いで販売を強めており、中国自動車市場において販売上位の 3～5 位を占めています。上位 2 社とは、依然差がある状況にはありますが、3 位の日産においては、先ごろ 2017 年の販売計画を当初比 10 万台上方修正し、過去最高の 150 万台以上に設定していたこともあり、日系自動車メーカー各社の好調は当面維持されると見込まれます。

このように販売が好調な要因は何か。日系自動車メーカーが強みとする、①コストダウン—部品共通化の進展によるコスト競争力の醸成、②対応力—中国自動車市場で人気のある多目的スポーツ車(SUV)の品揃え増加、等が挙げられます。今後も日系自動車メーカーならではの強みを生かし、市場の伸びを上回る成長が期待されます。

4. まとめ

中国は、世界一の自動車市場を有していますが、依然として自動車の普及が 1,000 人あたり 118 台(日本は 609 台)に留まっている状況もあり、市場の拡大は今後も継続していくことが見込まれます。しかしながら一方で、自動車が増えたことによる弊害も起きており、環境汚染や交通渋滞がそれに該当します。環境汚染については、中国政府も対策を打ち出しており、自動車メーカー各社に、電気自動車等の新エネルギー車の生産義務付けを課す、新たな規制を発表しています。

これまでの中国自動車市場は、年々拡大を続け、日系自動車メーカー各社も、足元では大きく販売を増やしています。しかしながら、環境汚染対策規制の導入等、市場に変化をもたらす事象もあることから、今後の動向に不確定な要素も含まれているのが現状と言えます。今後については、日系自動車メーカーが引続き好調を維持できるのか、市場動向を継続的に注視し、動向に応じた対応を図っていく必要があると思われます。

今後も、香港駐在員事務所では、当地情報の収集や提供、当地におけるサポート活動を行って参りますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【トピックス】

— 中国共産党大会 —

1. 中国共産党大会とは

中国共産党大会(以下、大会)は、中国共産党が5年に1度開く会議で、正式名称は中国共産党全国代表大会です。中国では、中国共産党は政府にあたる国務院や国会に相当する全国人民代表大会(全人代)より、上位に位置付けられているため、この大会が国の方向性を決める最高意思決定機関となっています。

大会では、党規約の改正等の重要事項が決定され、同時に、およそ200人の中央委員が選出されます。中央委員とは、最高指導部である中央政治局常務委員等の選出権限がある組織です。党大会閉会後の中央委員会総会において、党の最高指導部である中央政治局常務委員や、人民解放軍の指揮を行う中央軍事委員会のメンバー等を決定します。

2. 今回の中国共産党大会による結果

今大会では、習近平国家主席(以下、習主席)の政治思想である、「習近平思想」を指針として、党規約に盛り込むことが全会一致で承認されました。過去の党指導者たちも、自らの理念を党規約に盛り込んでいますが、最も権威の高い「思想」の名称で、自らの名前と共に規約に掲げられた指導者は、「建国の父」である毛沢東以来おらず、この点からも習主席が将来への地盤固めを進めていることが伺えます。

大会終了後、上述した中央委員会総会が開かれ、習主席を含む新しい最高指導部の7人(いわゆるチャイナセブン)が選出されました。

新たな最高指導部は、再選した習主席と李首相のほか、習主席と関係の深いメンバーが名を連ね、ポスト習世代である50代の政治家の名前はありませんでした。これまでの慣例は、円滑な指導者交代のため、事前に次世代のリーダーと目される若手幹部を最高指導部入りさせていましたが、今回は後継者を示唆する人事はありませんでした。

このほか、7人の政治局常務委員を含む25人の政治局委員も選出されましたが、習主席の元部下など、習主席からの信頼が厚い人物が、半数以上を占める構図となっています。

これらのことから、習主席による今後5年間の権力固めに加え、2022年以降も習主席が何らかの地位を維持する可能性を、示唆していると言われています。

3. まとめ

今大会は、習主席の指導理念を、党の最高規則である党規約に盛り込むことを決めて閉会し、

中国共産党は習主席に権力が極めて集中した体制に移行することとなりました。中国は現在、世界のリーダーシップを執っている米国にも負けない国づくりを目指しており、世界に与える影響は、今後更に大きくなると思われますので、その動向はこれまで以上に目が離せなくなりそうです。

【アセアンレポート】

－タイへの法人の進出形態－

1. はじめに

海外進出を検討する際、事前に進出目的や海外拠点の役割を明確にしておくことは、海外拠点の運営を行う上で、非常に重要です。海外進出の方法としては、海外拠点に求める役割に応じ、現地法人の設立または駐在員事務所の設立の2つの方法に大別することができます。そこで本稿では、これら2つの方法、現地法人の設立と駐在員事務所の設立についてレポートします。

2. 現地法人と駐在員事務所の違い

現地法人と駐在員事務所における最も大きな違いは、タイにおける「営業活動の実施可否」です。現地法人が実施できるのに対し、駐在員事務所は実施できません。

設立形態	現地法人	駐在員事務所
営業活動の実施	可	不可

3. 現地法人とは

現地法人とは、タイに法人を設立する進出方法です。タイで株式会社を新規設立する場合、株主の100%が日本側(日本の法人もしくは個人)である設立と、日本側が50%未満(タイ側50%以上)の株主による設立に大別できます。タイにおいては、外国人事業法により、外国人(法人もしくは個人)の50%以上の出資規制があるため、日本側で株主100%にて設立する場合には、タイ投資委員会の奨励を受けること等の条件があります。

4. 駐在員事務所とは

駐在員事務所の業務は、本社のための物品調達や品質管理、タイの動向調査などに関する情報収集が主であり、非営利活動に制限されています。なお、駐在員事務所では、営業活動が認められないため売上が発生せず、法人税の納税義務はありませんが、駐在員事務所の決算書を作成の上、税務署に申告する必要があります。

5. まとめ

海外進出を検討する際には、進出の目的や海外拠点の役割に応じて、選択・決定する事項が

多くあります。現地法人や駐在員事務所といった設立形態もその一つであり、それぞれのメリットとデメリットを把握した上で、決定する必要があります。

海外展開を行うにあたっては、様々な困難や課題が発生します。その際には、お気軽に当行までご相談ください。ご要望に応じ、適切な専門家のご紹介等も行っております。

【ニュース一覧】

〈香港〉

- ・経済
 - －7～9月の飲食店売上高、昨年同期比 5.1%増(11/6)
 - －7～9月期の成長率、3.6%に減速(11/13)
- ・金融
 - －香港初の仮想通貨場外取引センターが開業－1,000種類超を取扱(11/7)
- ・不動産
 - －高級オフィス賃料、リーマンショック以降の最高値更新(11/6)
 - －新築高級住宅購入、中国人が金額で3割超占める(11/9)
 - －民間住宅賃料 0.3%上昇、最高値更新(11/13)
 - －中古住宅価格指数 1.96%上昇、過去最高更新(11/14)
- ・その他
 - －香港ビジネス環境、世界5位－世銀報告(11/2)
 - －中国銀聯、香港でタクシーの電子マネー決済開始(11/14)
 - －2018年の賃上げ率実質 1.8%で、アジアワースト4位(11/16)
 - －10月の訪日客数、11%増(11/16)

〈広東省〉

- ・経済
 - －1～9月の広州市 GDP、7.3%増に減速(11/1)
 - －10月の広東省製造業 PMI、52.0 に減速(11/2)
 - －10月の広州市製造業 PMI、50.1 に減速(11/3)
 - －10月の広東省消費者物価、1.9%上昇(11/15)
- ・不動産
 - －深圳市、830mの超高層ビル建設案(11/13)
- ・その他

- －広東省企業従業員の月収中央値 3,778 元(約 6 万円)(11/1)
- －広州市、新エネ車生産で 2020 年までに 1 兆 7 千億円目指す(11/7)
- －深圳市の国家級ハイテク企業認定、1 万社突破へ(11/8)
- －深圳出入境施設、顔認証追跡システムを全面導入(11/8)
- －深圳市、新たな高度人材政策を発表、外国人人材のビザ発給対象拡大(11/16)

【香港コラム】

(出所:各種新聞報道等)

－茶餐廳－

茶餐廳は“チャーチャンテン”と読みます。日本で言うところの、ファミリーレストランや喫茶店のような飲食店です。高級店の部類ではなく、接待など人をもてなす場として利用されることは少ないですが、「安い・早い・美味しい」という三拍子が揃っており、香港人の日々の暮らしに、深く浸透している飲食店です。早朝から深夜まで営業している店舗が多く、長時間に渡る営業時間であることも、香港人の利用頻度が高い理由になっているかと思われます。

さて気になる茶餐廳のメニューですが、一般的には、飲み物も合わせると 100 種類を超えています。提供されるメニューは、中華料理でもなければ西洋料理でもなく、例を挙げると、「焗豬扒飯」(ドリア風ポークチョップ)や「西多士」(フレンチトースト)、「鴛鴦」(紅茶とコーヒーを混ぜ合わせたもの)、「ミルクティー」(紅茶とプーアル茶の葉を煎り、ミルクで煮出した、味が濃厚なミルクティー)等、ここでしか味わうことのできない、「香港式」の食事や飲み物ばかりです。

次に価格面ですが、飲み物付のランチセットメニューで、約 50 香港ドル(日本円で約 750 円)程度で食べることが出来ます。日本円で考えると、安さは感じられないかもしれませんが、香港の物価を考えると、割安です。香港の日本食レストランでランチセットを食べると、一般的には、約 100 香港ドル(日本円で約 1,500 円)かかりますので、お腹一杯食べてこの値段は、香港では比較的リーズナブルな部類であると思います。

①相席は当たり前

混雑時には、既に他の客がいる席に案内されることがや、自分が座っているテーブルに、他の客が案内されることがしばしばあります。

②回転率重視

注文から料理提供までのスピードが早く、また長居を防止するためなのか、冷房が強めに設定されています。

③英語はほとんど通用しない

多くの店員が英語を話さませんので、メニューの指差し注文がおすすめです。

④様々な追加料金設定

セットメニューの飲み物変更(ホットからコールド)等、様々な追加料金の設定があります。

その他、茶餐廳の特徴をご紹介します。

以上、香港では一般的な飲食店である、茶餐廳をご紹介いたしました。茶餐廳は、香港の街中にはたくさんあり、香港人の生活に密着している、無くてはならない存在です。位置付けとしては、日本のファミリーレストランのような場所ですが、香港ならではの食べ物やローカルルールもことから、当地の空気を肌や舌で味わえる観光地でもあり、当地へお越しの際は、一度挑戦してみるのも、一興かと思えます。